

MOTHER

A Letter Across Time



Ferdinando Frega – Nando the Scribe

Gillettenarrative.com

GILLETTE：母

私が子どもだった頃、あなたは誰かに私の誕生の話をするたびに、いつも同じ問いから始めた。私の最初の産声を聞いたときに口にした問いだ。「五体満足？」。それで私は何年ものあいだ、子どもというのは組み立てなければならないおもちゃのように、ばらばらの部品でこの世にやって来るのだと思っていた。そう言うと、みんな笑った。それから私たちはみな大人になり、それが本当だったと知った。

まず、育っていく体が来る。次に、進化していく力。それから、親が誰であるかを思い出させる頭脳。

あなたと私は...最初から衝突だった。私たちがいつまでも分かれただけで理解するのに、5年かかった。あなたは私たちが同じだと思っていた。だが私の半分はあなたではなかった—父だった。

私はあなたを愛さなかった。愛がどう働くものなのかを、あなたが一度も教えてくれなかったからだ。私はあなたを憎まなかった。私のDNAにそのコードがなかったからだ。だが私は60年のあいだあなたの怒りを抱えつづけ、数か月前、あなたの墓前でそれを返した。

今日は母の日だ。世界が千ものことに「ありがとう」を言うために使う日。だが感謝はただの言葉にすぎない—あとは事実だ。

だから、私は遠くからあなたを祝う。恨みはない。赦しも要らない。ようやくわかったことがあるからだ。あなたが私にくれなかったものは、あなたが持っていなかったものだった—そしてあなたは、それをどこで見つければいいのかも知らなかった。あなたの両親は、あなたに松明を手渡さなかったのだ。

どこで私を読んでいるにせよ、これをあなたに残していく。私があなただけを微笑ませた、その一回一回の記憶を。あなたはいつも、私を思いもよらない人間だと信じていた。だが、そうではなかった。私はただ、あなたの小さな坊やだった。

さようなら、母さん。
ナンド